



バジェグランデ “定着してきた 生ごみ回収”

音楽がなると道路にバケツが並ぶ姿は爽快です。回収だけでなくモニタリングも同時に実施しています。リサイクルセンター建築も実施の途につきました。

今号のもくじ

- 1 バジェグランデ 生ごみ回収
- 2 バジェグランデレポート No3 インターンを終えて
- 3 どんなりサイクルシャワー室ができるでしょうか
- 4&5 里子のポリビア便り
- 6 広美さん活動報告会
- 7 日本でくらすポリビア人／物品販売
- 8 スタッフの一言／ 寄付・入会案内



DIFAR とは、ポリビアで使われているスペイン語 Desarrollo Integrar de la Familia 「農村生活の総合的な発展」の頭文字です。ディファルと読みます。



バジェ・グランデ市 リサイクルレポート No. 3

★インターンを終えて

浦田広美・デ・リマ



市場のごみ回収コーナー。

今年1月から市場で毎日のごみ分別回収が始まりました。古い汚いごみ箱をスタッフがきれいに掃除し、色を塗って、大型の分別コンテナとして生まれ変わりました。ボリビア国内初の試みに、最初は戸惑う人もいましたが、3ヶ月間ごみ分別スタッフが、一人一人に丁寧に分別を教えてくれたおかげもあり、皆分別してくれるよう

になりました。2月からは、新規50家族を対象に毎週のごみ分別回収が始まりました。毎月50家族ずつ、回収する家族を増やしていき、最終的には1500家族から毎週分別回収を行います。家庭からの生ごみの回収が始まったのと、市場から毎日大量の生ごみを回収するので堆肥化する生ごみの量が一気に増えました。堆肥場建設が色々な事情で遅れているので、仮の堆肥場を手作りしました。雨で作業が進まず大変でした。便利な設備が整っている訳ではない場所で、プロジェクトを運営している里子さんやスタッフには尊敬を抱くばかりでした。

＝環境絵画コンクール＝ 私のインターンの期間が終わる前、2月に、環境絵画コンクールを実施しました。DIFAR とバジェグランデ市役所が企画し実施したこのコンクールでは、予定していた数を上回る約40人の参加者が集まり、バジェグランデの環境をテーマに、小学生から大人までの参加者がそれぞれの思いを絵に描きました。小学生部門のテーマは「私の大好きなバジェグランデ」で、バジェグランデにある豊かな自然や景色が描かれました。中高校生部門は「バジェグランデの環境問題」をテーマに、広場のポイ捨てのひどさを訴える絵や、森林伐採、水や空気の汚染が描かれました。大人部門では、「バジェグランデの伝統文化」をテーマに、織物をする女性やお祭りの風景が描かれました。参加者はそれぞれ DIFAR が参加賞に用意し



たTシャツを着て、力作を仕上げて行く様子は、大変ほほえましかったです。3月30日のバジェグランデ創立記念日に各部門上位三名が表彰されました。私は表彰式の前にインターン期間が終了し日本に帰国したので、表彰式の様子を写真で見たのですが、入賞した参加者の誇らしげな顔が嬉しかったです。

=プロジェクトに関わる人たち= さて、私のインターンの期間は3月で終了しましたが、5月から、新たにボリビアのラパス在住の岩谷良恵さんが4ヶ月間、インターンとしてプロジェクトに参加されます。岩谷さんは、青年海外協力隊の時から関わっていたラパスの村落開発のプロジェクトを今も継続して活動しています。NGOの立ち上げを目指し、その研修としてDIFARでインターンをされます。他にも、バジェグランデの大学生も数人DIFARの活動に参加し、中にはインターンとして働きながら、卒論でミミズ堆肥の論文を書いている学生もいます。また、プロジェクトが始まった時からずっと、教育課程に通う学生さんがプロジェクトのお手伝いをしています。どんどん良い輪が広がっています。関わる人皆が笑顔になるDIFARの活動を、これからも応援していきます。

★どんなユニークなリサイクルシャワー室ができるでしょうか！

サンタクルス在住 北山恭子

バジェグランデで建設予定のリサイクルセンター（堆肥場）の中に設置されるはずだったシャワーとトイレ室が予算の関係上削られた後、別のプロジェクトとして立ち上がりました。それは使用済みのペットボトルを使って建てられるばかりか、その建設に地域の学校の生徒達が参加し、ペットボトルへの砂詰めなどを手伝いながらリサイクルについて学んでいく、というものです。一石二鳥どころか三鳥にも四鳥にもなりそうな計画。

幸い東海NGO活動助成金をいただくことも決まり、エンジン始動です。せっかくリサイクル建築で建てられるのであれば、見た目にも美しい『リサイクルの広告塔』となるようなものにしなければもったいないというわけで今、建築家の友人のガブリエル氏にデザインを頼みました。例によってデザインの予算などないところから始まるので手弁当でのお願いでしたが、ガブリエル氏は自分の勉強にもなるからと承知してくださいました。どんなデザインができるのかとても楽しみです。



DIFAR 特注 3R推進
Tシャツより

里子のポリビア便り

D I F A Rのメーリングリスト PLAZA_BOLIVIA には、瀧本里子さんから折々の活動の近況が届きます。この3ヶ月間のメールからの抜粋要約です。ホームページやFacebookにもより詳しく掲載しています。



イベントでゴミゼロ達成！ : 3

月 28 日バジェグランデ市創立記念日。

始まる前にごみ担当者に分別の内容確認。

愛言葉はゼロバcssーラ！！(ゴミゼロ)。

3RキャンペーンTシャツ(3頁下参照)

を着て、手袋をはめたごみ拾い隊の子供たち約 10 人が会場を走り回りごみを拾い分別しました。感心してジュースをくれたお店もありました。見事にゴミゼロを達成しました。

続々と、実習希望が

教育機関から、「環境教育」の一環として、次々と実習希望の声がかかります。学校の先生になる生徒さんたちの協力は去年からありました。

サンタクルス市からも 60 名の先生が泊りがけで見学に来られました。主に堆肥実習を行いました。いかにも町から来



たおしゃれなブーツのお姉さんがスコップを持って堆肥づくりをする姿は微笑ましいです。また先日連絡があり「この前は、社会と理科の先生たちだったが、今度は数学と国語の先生たち 100 人を連れてきたい」と連絡がありました。「もう少ししたら良い堆肥場が建ちますのでそれまで待つて」と言いましたが「いやいや、あれが良かったです。そしてまた建ったら来る楽しみもできます」という事で受け入れることになりました。

リサイクルセンター入札と契約 当初の予定では、今年の2月に竣工予定でしたが、業者の都合で着工できず、再入札をしました。ビニールシートを買っての野外での堆肥上で生ごみ堆肥化をしてしのいでいましたが、念願の契約が成立。5月19日から 着工の運びとなりました。

学校での環境学習 プロジェクトに参加し



ている高校の一つ Sor Anita 校の生徒たちのごみ拾いの様子です。ポイ捨ての大半は、休み時間中に食べるお菓子の包み、プラスチックカップなどです。ごみ拾いのあと、各教室を回って、ごみはごみ箱へ

捨てるように約束しました。

昨年、全ての学校に講習会を行いました。今年も出前講座の申請が来ています。先日、ペットボトルの回収を行っているソラニッタ校の小学生達100人にごみの分別について講習会をしました。驚いたのは、去年「リサイクルって何か知ってる?」「3Rって何のこと?」というこちらからの問いかけに子供たちはほとんど答えられなかったのに、今回は「私たちのこと覚えてますか?」というとみんな「Siii(はい!）」と大声で答えてくれ、リサイクルってどんなことかな?という問いには「ごみを分別する事」とたくさんの子が即答しました。また分別の種類についてもとてもスムーズに答えられ、何回も講座を行う事で子供たちの頭に入るという事が確認されました。しかし、スタッフは4人なので手が足りません。今は、先生たちが授業に使える教材を作っています。今後も学校への啓発活動は重要な活動の一つで、講座を行った後それぞれの学校が何かリサイクルに関連した活動ができるように働きかけていきたいと思っています。



バジェグランド・プロジェクトファミリー 一旦、DIFARが

回収を始めたら、クリスマスや、カーニバル、雨や雪が降っても回収日と回収時間は変えません! 5月1日の労働者の祝日も朝7時から回収を始めました。普通なら午後は大い肥作りをします。でも、この日は回収だけにして、午後はお休みにしました。夜は、仕事を頑張ったプロジェクトスタッフたちとご飯を食べに行きました。テーブルについてみんなを見て「プロジェクトファミリー!」という感じがしました。最初は私とサバだけだったのに、今では6名の専属スタッフのほか、大学生ボランティアや実習生37名、教員課程6名も。夕食会には、市長も来られました。プロジェクトに関わっている人がこんなに多いことに改めて驚いているようで、でもこれは、自分のやりたいことだった!と熱く語っていました。

3月に3回の活動報告をしました

浦田広美・デ・リマ



2013年9月から半年間のインターン期間は、あっという間にすぎました。様々なことを経験することができた日々の仕事は、大変やりがいのあるものでした。

帰国後すぐ、3月10日の東京のヤマギシズム案内所での報告会には、32名の方々が集まってくださいました。一緒に帰国した夫ミゲル

の笛（チョケラ）の演奏で会をはじめ、プロジェクターで現地の様子を投影しながら、ボリビアでの活動報告をさせていただきました。報告会の後には持ち寄りの食事会もしてくださり、美味しい食事をいただきながら、ゆっくりと歓談することができました。

3月12日は三重県美杉の国内事務局に、18名が集まってくださいました。おんぼろトラックの写真に驚く方、報告を聞いて「日本でも取り組めていないことをボリビアでされていることに頭の下がる思いがした」と感想をくださった方、バジェグランデの写真を見て「自然が豊かないいところ！」という印象をもたれた方、色々な感想を伝えていただきました。

そして3月14日には、名古屋の中部 JICA にて報告を行いました。10名の参加者の中には、バジェグランデまで見学に来てくださった国際協力プロジェクトの大先輩もおられ、プロジェクトの進行について相談にもっていただきました。3回の報告会は、様々な方とお出会いできて活動について共有でき大変有意義な時間でした。企画運営してくださった皆さん、参加してくださった皆さんに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。インターンの期間は終わりましたが、これからも DIFAR の会員として、そしてボランティアとして活動を支えて行きたいと思えます。

「アンデスの風」を感じてみませんか？

報告会で演奏をしたミゲル・リマ氏の初の CD ができました。チチカカ湖周辺の集落でジャガイモの植ええと収穫の時期に演奏される笛チョケラの昔から代々伝わってきた曲が8曲入っています。2,000円（送料込み）

問い合わせ URL miguellimacalle.com
メール info@miguellimacalle.com





日本でくらすボリビア人① 山田ロサリオさんの軌跡

ロサリオさん（1953年生）はラパスで看護婦をしていた時、商社マンのご主人と知り合い結婚、1989年一家5名で日本に来た。当時は、スペイン語での情報もなく、案内板のローマ字表記もなかった為、日々の生活に困り、夜間中学校で日本語を学んだ。子供たちは学校でいじめにあい、ボリビアに



帰りたいかった。しかし、逃げないで乗り越えなさいと教諭され、踏みとどまった。

91年より外国人労働者の増加に伴い、給料面や入国管理局でのトラブルが増え、通訳として関わってきた。その後、「関西ボリビア人協会」（現日本ボリビア人協会）を立ち上げ今に至る。これまで多くのボリビア人が困った時、役に立つことができ、良かった。現在は、日本で暮らすための言葉や生活マナーを学ぶ講座を開催し、日本の生活に適應できるサポートをしている。彼女の話聞いて、開拓者の困難と勇気はどこにも通じるものがあること、また、自分自身もっと異文化を理解するために交流を深めたいと思った。（レポーター：瀧本規久子）

*****DIFAR の取り扱い支援物品*****



★ボリビアの手織物；農家のお母さんたちが、家畜を飼い、その毛を紡いで、農閑期に機織りをした伝統の手織り物です。正当な値段で買い取ることで、生活を少しでも向上できるよう願って取り扱っています。商品は、漸次ホームページにアップします。大

きさなどの提案を織手さんに伝えて製作してもらうこともできます。

★八重山諸島小浜島のもずく；会員の大城さんが、海で採った後丁寧に付着物を取り除き、地元のシママース塩で漬けています。次世代の海人（うみんちゅう）応援もずくです。
天然物 18kg 14,000 円、9kg 7,500 円、1.2kg 1,000 円
養殖物 18kg 13,000 円、9kg 7,000 円、1.3kg 1,000 円 1.2~1.3kg の袋以外は送料込み。

織物ももずくも注文・問合せは、DIFAR 事務局

Tel&Fax 059-212-0154 E-mail: info@difar.jp



:: :: :: :: :: コラム スタッフの一言 「橋本力男さん」 :: :: :: :: ::

私は、DIFARの理事で技術顧問です。里子さんの依頼で、2007年に1ヶ月間ポリビアで有機堆肥の講義や実習を8カ所で行いました。

その時、コマラバ市で生ごみ堆肥化の計画があり、私の堆肥化システムを提案したところ実施の運びになりました。帰国後、日本人2名を派遣したこともあり、コマラバ市の生ごみ堆肥の参加数は100

0軒近くになり順調に進んできました。以前と比較するとごみ埋め立て量が20%に減少したことは画期的なことです。

今回バジェグランデ市でも生ごみ堆肥化が開始されようとしています。堆肥舍も重要ですが、何より必要なことは、生ごみ堆肥化システムを理解して良質な堆肥生産ができる人材養成だと考えています。



5月30日（金）午後6時より、アスト津で橋本力男氏の「生ごみ堆肥で大切なこと」を開催します。なお、終了後 第5回総会を実施します。

活動支援のお願い

DIFARは会費と寄付金、助成金、物品販売の利益等で運営しています。ポリビアに日本の声が届くように、ポリビアの活動や文化、人の動きを日本に伝えるために資金が必要です。寄付は随時受け付けています。

{会費} 正会員 5000 円/年（会の運営に参加可能。総会で議決権があります）
賛助会員 3000 円/年（会の活動を応援してくださる方）
マンスリー会員 1000 円から/月（正会員または賛助会員の選択可能）

会員には、情報誌「DIFAR 通信」と主催事業の案内をお届けします。また、会主催の講演会は無料でご参加いただけます。

{寄付} 随時 いくらでも、切手も可

振込先 郵便振替口座 00890-0-122793 (トビ) ディファル

三菱東京UFJ銀行 店番 450 普通口座 0649345 DIFAR

NPO 法人 DIFAR 事務局 〒515-3421 三重県津市美杉町八知 1383

Fax 059-212-0154 mail info@difar.jp

URL <http://difar.jp/> facebook <https://www.facebook.com/difarnpo>